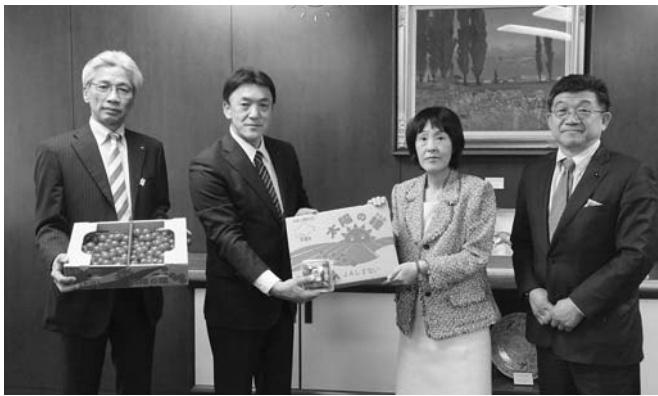


# 大雪災害乗り越え決意新たに！

## 高橋はるみ北海道知事へ初出荷を報告

### そ菜振興会選果場開き・ミニトマト部会青空研修会開催

5月21日、西村和夫組合長はしずくない産ミニトマト「太陽の瞳」の初出荷が開始したのをうけ、北海道議会の藤沢澄雄議員と新ひだか町の大野克之町長らと共に北海道庁を訪れ、高橋はるみ知事に初出荷を報告しました。昨年の販売実績が9億8500万円と過去最高の販売額で



高橋はるみ知事に「太陽の瞳」を贈呈

ありましたが、今年は2月5、6日の大雪により新規就農者らのビニールハウス238棟が被災した中での出荷となり、西村組合長は「一生懸命収穫しました」と新規就農者や研修生らが収穫したミニトマトを贈呈し、高橋はるみ知事より「素晴らしいミニトマト、ありがとうございませう」と言葉を頂きました。

JAしずくないでは現在、被災したビニールハウスのうち約130棟が9月頃の出荷を目指して復旧の最中ですが、高橋はるみ知事は今後についてビニールハウスの共済加入促進やハウス内の暖房設置、冬場のビニールの取り外しなどの対策を講じるように要請し、西村組合長は「今回のことをうけ、被害を想定した対応が出来るようJAでも取り組んでいきたい」と答えました。

また5月22日には野菜集出荷センターにて選果場開きを行い、ミニトマト生産者、農協、道内外の市場関係者ら140人が集まり、それぞれジンギスカンを囲み、今年のミニト



決意新たに一致団結！

マト収穫、出荷の決意を新たにしました。

西村組合長は冒頭で「2月の大雪によって倒壊したビニールハウスの復旧には関係機関やたくさんの方々の多大な支援があり、この日を迎えられ感謝しています。今年の販売目標である8億2100万円を全力で取り組んでもらい来年は部会目標である10億円を超えたい」と挨拶をしました。選果場開きは今年から就農する3組と研修生3組による自己紹介と町内在住でミニトマト「太陽の瞳」を歌うシンガーソングライターの阿部卓馬さんによるミニライブで大いに盛り上がりました。



青空研修会での記念撮影

次の日にミニトマト部会主催で青空研修会が行われ、同部会の生産者のハウスを3カ所視察しました。普及センターの説明によると、4月から例年より日照時間が短いことや昼夜の寒暖差が大きいことで例年よりも10日ほど遅れているとのことでしたが、管理体制はしっかり行き届いているなど順調な生育を確認することができました。

また、本年の出荷は5月21日より撰果場は本稼働し道外出荷も29日より始まり、生産者並びに関係者一丸となり災害を乗り越え決意新たに一致団結しました。